

## 2023年第1回指導医制度委員会議事録

日時：2023年4月14日（金） 7時～7時40分

場所：札幌コンベンションセンター106会議室

参加者：田中信弘（担当理事）、相澤俊峰（委員長）、伊藤康夫、坂井顕一郎、  
竹林庸雄、出村 諭、平井高志、星野雅俊、森本忠嗣、宮崎正志、渡邊航太、  
橋本顕二（事務局）

欠席者：吉田 剛

### 議事

1. 田中担当理事の挨拶、新規委員を含め全員から自己紹介の後、相澤委員長が議長を務めて議事を開始した。
2. 2022年度の指導医合格者の報告
  - 事務局橋本から報告された。
  - 新規、継続、名誉会員は全員合格であったが、猶予申請は7名申請の

内 3 名がセミナー不参加、単位不足等で不合格となった。

### 3. 2023 年度新規申請、継続申請の見込み数と審査の振り分け

- 事務局橋本から報告された。
- 継続申請は 230 名程度、新規申請は 110 名程度が予想され、例年通り  
前者は 9 月・10 月で、後者は 11 月に審査が実施される予定である。

### 4. 指導医申請要項の見直しについて

- 田中担当理事から、専門医機構認定の脊椎脊髄外科専門医が作られた  
ため、これと脊椎脊髄外科指導医の差別化を明確にするよう、波呂理  
事長から委員会で検討するように指示があった旨が説明された。
- 専門医機構の脊椎脊髄外科専門医の主な申請条件は
  - 1) 手術症例の提示：100 例（うち執刀医としての症例数 50 例以上）
  - 2) 手術には腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、頸椎前方固定術、  
頸椎後方除圧術の 4 つを含むこと
  - 3) 論文・発表：3 編
- 一方で JSSR の脊椎脊髄外科指導医は
  - 1) 手術症例の提示：300 例、うち執刀 200 例以上、頸椎 20、腰椎 60

以上

2) 論文・発表：5編

となっている。

- 委員からは手術の種類（内視鏡、インスツルメントなど）、疾患カテゴリー（外傷、上位頸椎など）での差別化や、症例数を500例、論文・発表を英語論文1編以上、論文・発表を筆頭5編以上にするなどの意見が出された。
- 理事会としては2026年からの運用を目指しているため、まず田中理事、相澤委員長で原案を作成し、委員会でメール審議などを行うこととなった。また、今後の指導医申請の必須条件に、「脊椎脊髄外科専門医であること」を加えることが承認された。

以上ですべての議事を終了し、7時40分に閉会となった。